

9月23日は「手話言語の国際デー」

問 福祉課障がい者福祉係 ☎73-9123 📠73-2555

「手話言語の国際デー」は、2017年12月19日に国連総会で決議・制定されました。決議文では、手話言語が音声言語と対等であることを認め、ろう者*の人権が完全に保障されるよう国連加盟国が社会全体で手話言語についての意識を高める手段を講じることを促進することとされています。

※主に手話を使ってコミュニケーションをとるきこえない人たち。ろうあ者ということもあります

なぜ9月23日？

1951年9月23日に、きこえない人たちの団体「世界ろう連盟(WFD)」が設立されました。

日本でも、今年施行された手話施策推進法で「手話の日」と定められています。

手話言語の国際デー 2025年テーマ

手話言語権は人権だ！

英語原文：No Human Rights Without Sign Language Rights

ブルーライトアップ



世界ろう連盟は、手話は言語であるという認識を広めるため、2022年から世界各地で青色のライトアップを呼びかけています。小郡市でも2024年から、福祉課の受付スペースでブルーライトアップを行っています。

また、きこえない人の団体である「小郡聴力障害者福祉協会」ときこえる人の団体「小郡手話の会」が、市役所入口でブルーライトアップのイベントを行っています。

青色は「世界平和」を表す色とされています。2025年の手話言語の国際デーや、世界ろう連盟のロゴマークの色にも、青色が使われています。



INTERNATIONAL DAY
OF SIGN LANGUAGES

おごおり七夕mini手話動画

手話や聴覚障がいを知り、理解を深めてもらうため、手話動画をYouTubeで公開しています。

市のさまざまな部署の職員が、業務で使うフレーズや紹介したいサービスを手話でお届けします。



デフリンピックを知っていますか

デフリンピックは、国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」です。

競技のルールはオリンピックとほぼ同じですが、選手は競技場に入った時点で補聴器などの使用が禁止される、競技運営に国際手話を使用するといった違いがあります。また、審判などによる合図や打球音が聞こえないため、視覚的に補って競技を行います。

11月15日～26日には、東京2025デフリンピックが開催されます。世界の70～80の国と地域から、選手やスタッフなど約6,000人が参加する予定です。

今回は、1924年にフランスで第1回大会が開催されてから、100周年の記念すべき大会。日本で初めての開催となるデフリンピックに注目です。

デフ オリンピック デフリンピック
Deaf + Olympics = Deaflympics

“きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック”

音の代わりに視覚で情報を補います

例

- 音の代わりにフラッシュランプを使って視覚的にスタートを知らせる
- 笛を吹くだけでなく、旗や片手をあげて反則を選手に知らせる



21の競技が行われます

- | | | |
|-------------------------|------------|------------|
| ●陸上 | ●バドミントン | ●バスケットボール |
| ●サッカー | ●ボウリング | ●ビーチバレーボール |
| ●ゴルフ | ●ハンドボール | ●柔道 |
| ●空手 | ●オリエンテーリング | ●射撃 |
| ●水泳 | ●卓球 | ●テコンドー |
| ●テニス | ●バレーボール | |
| ●自転車(ロードバイク・マウンテンバイク) | | |
| ●レスリング(フリースタイル・グレコローマン) | | |



東京2025デフリンピックの大会エンブレム(標章)は、人々のつながり意味する「輪」をテーマに作られました。

きこえない人や支援する人の間で代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のようにつながった先で、新たな未来の花が咲いてほしいという願いが込められています。

また、赤・黄・青・緑の4色で、世界中からたくさんの人が集まる大会の多様性を表現しています。